

エジプト -- スポーツはスポーツクラブで (特集 途上国・新興国のスポーツ)

著者	土屋 一樹
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	237
ページ	30-31
発行年	2015-06
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00003189

エジプト

スポーツはスポーツクラブで

土屋一樹

●サッカーと革命

エジプトで最も人気のあるスポーツはサッカーである。代表チームはアフリカ杯で最多となる七回の優勝を誇る強豪で、最近では二〇〇六―一〇年に三連覇を達成した。このところの世界ランキングは五〇位前後だが、二〇一〇年には一時九位を記録した。

しかしながら、ワールドカップには二度出場したのみで、前回の出場は一九九〇年イタリア大会と二五年前だった。国民の熱狂的な応援も実らず、近年は毎回あと一步のところでの予選敗退が続いている。

国内のサッカーリーグは、六〇年以上の歴史があり、現在は二〇チームでトップリーグを構成している。国内リーグでは、カイロを本拠地とするアハリーと、カイロに隣接するギザをホームとするザマーレクが人気を二分している。

いずれもアフリカを代表するクラブチームでもあり、アフリカ・チャンピオンズリーグにおいて、アハリーは最多の八回、ザマーレクはそれに次ぐ五回の優勝経験を持つ。

アハリーとザマーレクの対決はカイロ・ダービーと呼ばれ、最も注目を集める伝統の一戦である。

その模様はエジプト国内のみならず、多くの中東諸国にも生中継される。試合が始まる頃になると、カイロの街中は交通量が減り、代わりにテレビ観戦をする人で喫茶店がごった返す。試合後は、勝ったチームのファンがクラクションを鳴らしながら歓喜のパレードをする光景をよくみかける。

両チームには熱狂的なサポーター組織がある。公式ファンクラブに飽き足りない若者たちが二〇〇〇年代なかばに結成した組織で、固い結束と過激な応援で有名に

なった。彼らは、サポーター集団同士だけでなく、スタジアムに派遣される警官隊とも衝突を繰り返した。強権的な警官隊を敵視し、たびたび乱闘騒ぎを起こしている。スタジアムで警官隊に立ち向かった経験は、「一月二五日革命」において大いに役立つこととなった。

二〇一一年一月の大規模抗議デモにおいて、アハリーとザマーレクの熱狂的サポーター集団はデモ隊の最前線に立ち警官隊と対峙した。警官隊に対抗した経験をもつ唯一の集団として、抗議デモに参加した市民の盾となったのである。このときばかりは、日ごろはライバル関係にある両チームのサポーター組織が連携して警官隊に立ち上がった。エジプト国民として、ムバラク体制という共通の敵に挑んだのである。

●カイロのスポーツクラブ

サッカー観戦に熱狂するエジプト人を目にする機会は多いが、一般のエジプト人がサッカーをしている光景をみかけることはほとんどない。サッカーに限らず、カイロの街中でスポーツをする人を見ることがまれである。そもそも公園や空き地がない。市民が利用するような公共スポーツ施設もない。道路は路上駐車と凹凸がひどくてジョギングもできない。カイロのスポーツ環境は劣悪で、気軽にスポーツを楽しむことは難しい。

もともと、お金があれば話は別だ。カイロには会員制スポーツクラブが点在し、そのなかはスポーツ天国なのである。多くのクラブは、市街地にありながら、サッカーコート、テニスコート、体育館、武道場、ジョギングコース、スイミングプールなどを備え、趣味で楽しむ人からプロを目指す人まで、あらゆるレベルの老若男女がスポーツに励んでいる。

たとえば、最も有名なスポーツクラブのひとつゲジラ・スポーツクラブは、一八八二年に駐在イギリス軍の施設として設立された。イギリス軍が撤退した後に国有化されるなど、当初よりも規模は縮

小されたものの、いまでもゴルフコースやポロ競技場までも持つ。現在の会員数は四万三〇〇〇世帯。終身会費は一人あたり三〇〇万円とエジプトの一人当たりGDPの一〇倍近い。

その他にも、ナイル川にヨットハーバーを持つクラブ、射撃場を備えるクラブなど、カイロには多様な施設を持つ伝統的なスポーツクラブがいくつもある。こうしたスポーツクラブの会員であること

は、上流階級の証となっている。スポーツクラブには、運動施設以外にも、レストラン、カフェ、ヘアサロン、映画館、モスク、子ども向け遊戯場などが設置されている。クラブのなかはカイロの喧騒とは無縁の平穏で快適な空間が広がっており、会員の社交の場にもなっている。

●サッカーだけじゃない

カイロのスポーツクラブは、こ

れまでに多くの競技で世界レベルの選手を輩出している。なかでも活躍目覚ましいのがスカッシュである。現在の世界ランキングをみると、男子は世界ランク一位をはじめ上位一〇人のうち五人、女子も世界ランク二位を含む四人がエジプト人である。現在のエジプトはスカッシュ大国なのである。

エジプトでスカッシュを始めた

のは、二〇世紀初めのゼーラー・スポーツクラブのイギリス軍将校であった。その後、スポーツクラブに出入りしていたエジプト人も広まり、一九四〇年代には、ゼーラー・スポーツクラブで腕を磨いたエジプト人プレイヤーが全英オープンで優勝するなど、エジプトはスカッシュの強豪国となった。

一九五〇年代以降は、政治状況の変化もあり、エジプト人プレイヤーは長らくスカッシュの国際舞台から遠ざかっていたが、一九九〇年代に再び国際大会の常連となった。カイロのスポーツクラブで育ったプレイヤーが国際大会で好成績を収めるようになったのである。一九九六年からはエジプトでも国際大会が開催されるようになった。ピラミッドの前に設置された屋外特設コートは、幻想的な雰囲気とともに、エジプトのスカッシュ人気を体現しているかのようであった。スカッシュはサッカーに次ぐ人気スポーツであり、スポーツクラブに通う多くの子どもを引き付けている。

スポーツクラブでは、サッカーやスカッシュといった球技だけでなく、空手、合気道、柔道、テコンドーなどの武道も盛んである。

たとえば空手は、一九七〇年代初めにブルース・リーの映画をきっかけにエジプトでも人気が高まった。当初はおもにスポーツクラブで教えられていたが、いまでは全国に一〇〇カ所以上の空手道場がある。エジプト政府による普及政策によって、例外的に、空手はスポーツクラブを超えて広がったのである。

国際試合でのエジプト人選手の活躍も目立つ。二〇一四年の空手世界選手権では男女ともに複数のメダルを獲得し、世界空手連盟の国別ランキングでエジプトは六位となっている。今年二月には世界空手リーグの第三戦がエジプトで開催され、多くのエジプト人選手が好成績を収めた。

エジプトでは、伝統的にスポーツはスポーツクラブでするものだった。その傾向は現在も変わらない。ほとんどのスポーツはいまも富裕層のものであり、多くの国民にとってスポーツは観戦するものとなっている。エジプトにはいまだ大きなスポーツ格差が存在している。

(つちや いちき/アジア経済研究所 中東研究グループ)